

令和5年度 事業報告書

I. 法人の運営状況

- 当法人は、幼保連携型認定こども園あいいくの丘の運営を行っている。また、丹波市からの委託を受け竹田・前山の両アフタースクールを運営している。

令和5年度は、前年度に引き続き年間を通じて未満児が多かったことにより、資金収支面において安定した運営ができた。

(参考までに記す：社会福祉充実残額は約△74,020千円)

- 職員の処遇改善について、公定価格の改定や最低賃金の改正等により平均 5.2%の賃金改善となった。

II. 認定こども園あいいくの丘

(1) 利用定員 125名 (1号認定児 15名、2号・3号認定児 110名)

(2) 保育日数 2・3号認定児 293日(内希望児土曜保育 50日) 1号認定児 214日

(3) 令和5年度園児数

令和5年度 園児数

	年齢	認定区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
	1号認定	3歳児	教育標準	6	6	6	5	5	5	6	6	6	6	6	6	69
4歳児		教育標準	5	5	4	4	3	3	3	2	2	2	2	2	37	
5歳児		教育標準	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	
小計			14	14	13	12	11	11	12	11	11	11	11	11	142	
2・3号認定	0歳児	標準時間	4	4	5	5	5	5	5	4	4	5	5	5	56	
		短時間	3	3	2	3	3	3	4	5	5	4	4	4	43	
	1歳児	標準時間	14	14	13	12	12	13	12	13	14	14	13	13	157	
		短時間	9	9	10	11	11	10	11	10	9	9	10	10	119	
	2歳児	標準時間	14	14	14	13	13	12	12	12	12	12	12	12	152	
		短時間	11	11	11	12	12	13	13	13	13	13	12	11	145	
	3歳児	標準時間	12	12	11	11	11	12	10	10	10	10	9	9	9	126
		短時間	7	7	8	9	9	8	9	9	9	9	10	10	10	105
	4歳児	標準時間	16	16	16	16	15	15	14	14	14	16	17	17	17	189
		短時間	8	8	9	9	10	10	11	12	10	9	9	9	9	114
	5歳児	標準時間	19	19	19	19	19	19	19	18	18	18	19	19	19	225
		短時間	10	10	10	10	10	10	11	10	10	10	9	9	9	118
	小計			127	127	128	130	130	130	130	130	130	130	129	128	1,549
	合計			141	141	141	142	141	141	142	141	141	141	140	139	1,691

(4) 職員数 (法人)

・令和 5年 4月 1日・・・52名

事務長1名、園長1名、副園長1名、主幹保育教諭2名、給食室主任(管理栄養士)1名、看護師1名、保育教諭21名、保育士10名、保育補助1名、栄養士2名、調理師1名、事務職員2名、バス運転手2名、アフタースクール支援員6名

・令和 6年 3月31日・・・53名

事務長1名、園長1名、副園長1名、主幹保育教諭2名、給食室主任(管理栄養士)1名、看護師1名、保育教諭20名、保育士9名、保育補助1名、管理栄養士1名、栄養士2名、調理師1名、調理員1名、事務職員2名、バス運転手2名、アフタースクール支援員7名

(5) 行事

月	主 要 業 務 事 項
4	4. 入園・進級式、保護者会総会(書面表決) 17~28 個別懇談(新入園児、前年度途中入園児及び希望の保護者)
5	8. ひかり組・たいよう組:花まつり 8.22 内科健診 19. 公開保育事前研修 23. サツマイモのつるさし 31. 指導主事による園内研修 ※大原まつり(神事のみで行事なし)
6	2. 丹波市巡回相談 4. 花しょうぶまつり(たいよう組希望者) 5~9. 中学生トライやる・ウィーク 7. 歯科健診 11. 奉仕作業 14. 指導主事による園内研修 16. オープン参観・引き渡し訓練 23. 丹波市公開保育研修会
7	2. 奉仕作業 3. プール開き 7. たいよう組:チャレンジ保育 12. 前山小学校1年生との交流 19. 夏のお楽しみ会 26. 総合避難訓練
8	1号認定児夏休み(8/1~8/31) 8. プール参観 9. 不審者対応訓練 27. 社会福祉法人就職フェア
9	3. 奉仕作業 4. 交通安全教室 12. たいよう組:ぶどう狩り 14. 丹波市巡回相談 17・23. 竹田小学校・前山小学校運動会(たいよう組希望者) 28. 入園説明会
10	2・23. 内科健診 7. あいいくの丘運動会 8. 丹波竹田祭(たいよう組希望者) 13. そら組・ひかり組:バス遠足 16. つき組:バス遠足 18. 総合避難訓練 18. たいよう組:栗拾い 19. オープン参観 19. 就学時健診 20. ほし組:バス遠足 23. サツマイモほり 27. にじ組:バス遠足
11	1. たいよう組:竹田小学校音楽会練習見学 2. たいよう組:親子レクリエーション 8. つき組:クニニュータナ教室ファイナル 9. たいよう組:バス遠足 10. 収穫祭 14. ひかり組:ムッレ教室ファイナル 17. たいよう組:ムッレ教室ファイナル
12	2. あいいくフェスタ Part1 8. たいよう組:竹田小学校5年生との交流 12. たいよう組:竹田小学校・前山小学校1年生との交流 15. 人形劇鑑賞(劇団バク) 19. たいよう組:木のジャングルジム(くむんだ一郡上) 22. クリスマス会 29. 1号認定児冬休み
1	9. 新年おめでとう会 9. 七草がゆ 16. どんど焼き 19. 丹波市巡回相談
2	3. あいいくフェスタ Part2 5. 豆まき会 9. 市島地域小学校入学説明会 14. ひかり組:シイタケ菌打ち 20. 入園説明会 27・28・29. 竹田・前山小学校(竹山小学校)体験登校 28. 丹波市巡回相談 29. 竹田・前山小学校(竹山小学校)体験入学 ※福知山市立各小学校入学予定の園児保育参観・引継ぎ
3	5. お別れ会 13. たいよう組:お別れバス遠足 19. 卒園・修了式 21. 1号認定児春休み

※週・月間行事・・・清潔検査、絵本貸出、食材体験、異年齢児活動、誕生会、愛情弁当、避難訓練、
身体計測、交通安全指導

※年間行事・・・ムッレ教室・クニニュータナ教室（春・秋、3歳～5歳児）、
野菜づくり・収穫・クッキング、英語あそび（3歳～5歳児）、
かがくタイム（5歳児）、小学校との交流、地域との交流

※実習受入状況・・・教育実習1名（6/5～6/23）、保育所実習1名（8/21～9/2）、教育実習1名（9/4～9/15）、
教育実習1名（9/25～10/20）

(6) 保健衛生（保健室）

月	主 要 業 務 事 項
5	8・22. 内科健診 23. たいよう組：尿検査
6	1. たいよう組：フッ素洗口指導 7. 歯科健診
10	2・23. 内科健診
2	20. 入園説明会において看護師より健康講話
3	15. たいよう組：手洗い指導

※ 月1回：身体計測 週1回：清潔検査（爪、髪） 随時：希望保護者との健康相談

※ 体調不良児 179名

※ 職員健診（5月～3月） 全員受診

※ 職員インフルエンザ予防接種

※ 薬剤師による環境調査（7月）

※ 保育事故防止に向けた取組

(7) 食育活動（給食室）

月	主 要 業 務 事 項
4	21. 誕生会
5	12. 誕生会 16. たいよう組：よもぎパン作り 23. サツマイモのつるさし
6	9. 誕生会
7	14. 誕生会
8	4. 誕生会
9	8. 誕生会
10	17. 食材ウオッチング（サツマイモ） 20. 誕生会 23. サツマイモほり
11	10. 収穫祭 17. 食材ウオッチング（ねじりパン） 24. 誕生会
12	19. 食材ウオッチング（杵・臼） 22. クリスマス誕生会
1	9. 食材ウオッチング（七草がゆ） 12. 誕生会
2	5. 豆まき会 22. 誕生会
3	1. ひな祭り誕生会 15. お楽しみランチ（たいよう組：リクエストメニュー）

※ 給食献立掲示 アレルギー対応

(8) 特別支援保育

対象園児4名・・・コーディネーター1名、加配保育教諭4名

(9) 認定こども園運営の概要

① 教育・保育

- ・新型コロナウイルス感染症（2類相当）が、5月8日から「5類感染症」に移行したが、引き続き、感染症防止に努めるとともに、通園バスにおける「置き去り防止安全装置」を設置（6月3日）するなど、行政からの通知等を確認しながら、安全・安心な園運営を継続できるよう改善を図った。
- ・園目標「五感で四季の移り変わりを感じ、自然と共にたくましく育つ子」を常に意識し、その育成をめざして、「ムッレ教室」「クニニュータナ教室」をはじめ、各クラスで自然に親しむ活動に積極的に取り組んだ。5月2日には、日本野外生活推進協会創立30周年記念事業の一環として、スウェーデンから5名の視察訪問を受けるなど、当該協会との更なる連携を深めた。
- ・「園児も保育者もわくわくした保育」をテーマに、園児にとって園が楽しく、居心地のいい場所であることを常に意識し、園児の興味・関心や発達段階等にふさわしい環境構成となるよう工夫した保育実践に努めた。
- ・全クラスに1台タブレットを初めて導入し、ICTを活用したドキュメンテーション（保育活動の継続した記録、保育活動の見える化）に取り組んだ。保育者が、日々の保育活動を振り返るとともに、園児理解を深め成長に気づいたり、保育活動を深めたり見直したりする機会となるなど、保育者の資質向上に役立つとともに業務改善に繋がった。また、日々、連絡アプリ「イロドリリンク」を通じてドキュメンテーション（園児の園生活や活動の様子）を保護者に配信することで、家庭との連携強化に繋がった。
- ・園児の「なぜ？ どうして？」を大切に、科学の楽しさを実感できるようにすることで「筋道を立てて考える力」や「自分で問題解決する力」を育むことができるよう、外部講師による「かがくタイム」（2年目、年間8回）を継続実施した。
- ・ネイティブ講師を招き、遊びやゲームを取り入れたり、英語の絵本を見たり歌を歌ったりするなど、楽しんで英語に触れながらコミュニケーション力を育てる「英語あそび」（年間8回）を継続実施した。
- ・幼児期と児童期の円滑な接続、教育の連続性・一貫性を大切にし、「人と関わる力」、「生活する力」、「学ぶ力」の3つの柱を掲げ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を基に、アプローチプログラムを作成し、「学びの芽生え」を培う保育実践に取り組んだ。
- ・竹田小学校・前山小学校が次年度、「竹山小学校」へ統合となることを見据え、より一層、「幼小連携」を強めるため、本園5歳児（たいよう組）が小学校に出向き、小学1年生・5年生児童との交流、小学校の運動会への参加、音楽会練習の見学、小学校入学前の体験登校・体験入学等の取組を積極的に行った。
- ・地域との連携では、5歳児（たいよう組）を中心に、石像寺「花まつり」（5月）や「三ツ塚花しょうぶまつり」（6月）、「丹波竹田祭」（10月）等に参加するとともに、更生保護女性会の方とのサツマイモほり交流、いわくら里山会の方とのシイタケの菌打ち体験等を行い、地域の方々との交流を深めた。
- ・園児の健康管理やアレルギー対応等については、看護師及び管理栄養士の指導の下、職員

全員が情報を共有し、職員間での連絡の徹底、密接な連携により、体調不良児の迅速な家庭への連絡等の対応、アレルギーの未然防止等に努めた。

- ・食育活動として、各クラスで野菜を栽培し成長観察を行うとともに、キュウリやナス、トマト等の夏野菜クッキングを行った。また、秋の「収穫祭」(11月)では、サツマイモを用い、ふかし芋や焼き芋を行った。野菜を育てたり収穫したりする活動を通して、園児が食の大切さや楽しさを学ぶ機会とした。
- ・特別な支援を必要とする園児の支援については、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者は勿論のこと、丹波市・福知山市等の関係機関と密接に連携を図るとともに、園内における支援方法について検討し、個別最適な支援をめざして保育を行った。
- ・「持続可能な」職場の勤務環境づくりをめざし、教育・保育室や給食室の業務の内容・方法を絶えず見直し、保育等の質を落とさず、継続可能な業務の内容・方法となるよう工夫し、改善を図った。特に、常勤職員一人一人の勤務時間終了後の退勤時刻は早まってきた。今後も、ワーク・ライフ・バランスを大切に、職員が働きやすく心身ともに健康で元気に働き続けられる、風通しの良い職場環境づくりを積極的に推進していく。

② 職員研修

- ・丹波市教育委員会主催「公開保育研修会」(6月23日)の指定を受け、園児の「主体性」をはぐくむ保育の充実に向け、本園の保育の考え方や保育実践の在り方、めざす環境づくりや保育者の役割等を全職員で再確認、共通理解を行い、全クラスで歩調を合わせて保育実践を進めた。
- ・大学教授や丹波市教育委員会指導主事を講師として招へいし、保育園部常勤職員、幼稚園部常勤職員、非常勤職員毎に園内研修の機会(計8回)を設け、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を基にした研修を行い、保育者としての資質向上を図った。
- ・「保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」(令和5年5月、こども家庭庁)を基に、常勤職員、非常勤職員毎に、不適切保育の未然防止に係る園内研修(6月)を実施し、保育者として「子どもの人権尊重」への意識高揚を図った。
- ・「保育士等キャリアアップ研修」については、丹波市教育委員会や湊川短期大学が実施する研修をはじめ、兵庫県保育協会が実施するオンライン研修等を活用し、常勤職員、非常勤職員共に積極的・計画的に受講し、専門性向上を図った。
- ・その他、丹波市教育委員会や健康福祉部子育て支援課等が実施する各種研修会を受講し、若手・中堅職員の資質向上を図った。

③ 家庭との連携

- ・こども園は、子どもが初めて親から離れ協同して社会生活をする場であることを十分認識し、新入園児に対しては、園児はもとより保護者の方にも安心感が持てるよう、きめ細やかな連絡、連携を取ることを心掛け、誠意をもって保護者への対応を行った。進級児に対しても、保護者の声には常に耳を傾け、また家庭での様子も把握しながら、園と家庭との連携強化を大切にした。
- ・保護者の要望等には十分傾聴し、内容をしっかり受け止めたうえで、全ての保護者に対して公平であることを常に意識して対応するとともに、園運営の改善等に活かすようにした。
- ・園だより等の各種たより、「よい子ネット」、「イロドリリンク」、ホームページ等を活用し、家庭へのお知らせや連絡、園児の様子、子育て支援の情報等を適時発信し、保護者の理解や信頼が深まるよう努めた。

(10) 子育て支援室の開設

- 開催回数年 96 回、利用者数 403 名（親子延べ人数）
 - ・新型コロナウイルス感染症防止に留意し、人数制限を行いながら、地域在住の 0 歳～5 歳の親子を対象とした「わくわくひろば」（週 2 回）を開催するとともに、電話や面談等で個別相談に応じる等、積極的に子育て支援に取り組んだ。
 - ・「わくわくひろば」には、経験豊かなベテラン職員 2 名を配置し、子育てについて気軽に話せたり、参加親子の交流が深まる場づくりを常に意識するとともに、「わくわく通信」（月 1 回）を発行し地域に各戸配布し、地域の未入園児家庭に向けた情報発信を行った。
 - ・保育体験として、園行事への親子の参加を呼びかけ、「わくわくひろば」で運動会やクリスマス会等季節の行事を開催するとともに、外部講師を招き親子で参加可能な「3 B 体操」を実施した。

Ⅲ. アフタースクールの運営

- 竹田アフタースクール登録児童数 令和 5 年 4 月 34 名 ・令和 6 年 3 月 29 名
- 前山アフタースクール登録児童数 令和 5 年 4 月 13 名 ・令和 6 年 3 月 12 名

- ・下校後の児童が安らぐ環境を意識し、安全で規則正しい時間を過ごせるように配慮した。
- ・個別支援の必要な児童に対して人員を配置し、個別支援を実施した。
- ・小学校との連携を十分に取り、アフタースクールでの児童の様子を見学してもらう機会を作った。
- ・小学校統合に伴うアフタースクール統合に向け、アフタースクールの合同実施や支援員配置の工夫等、スムーズな移行ができるよう調整を図った。

※月 1 回防災訓練の実施 ※支援員研修会参加（随時） ※保健衛生の講話（随時）